

令和5年度 輪光福祉社会事業報告書

令和6年3月31日
社会福祉法人輪光福祉会

令和5年度は、新型コロナウイルスも5類へ移行し、感染者も減少傾向にありコロナ禍以前の状況へ戻りつつあります。各事業として、こども園・介護保険事業・障害事業では、感染対策として、隔週の感染対策会議を通じ共通認識し、利用者へ安心したサービスの提供につなげてきました。運営面は、令和5年6月に新しい事業として障害事業の児童発達支援を開所しています。行事としては、輪光無量寿園やこども園ともにご利用者様や園児の皆様には感染対策として行事を少しずつご家族の参加等を行いました。又、今年の輪光無量寿園の桜祭りにおいては家族と一緒に弁当等を食べての実施が来ています。今後も感染対策が重要とされると思いますので、持ち込まないという事を全職員へ周知するような対応を行い、感染者を出さない様に取り組んでいながら少しずつご利用者の対応や行事等においてもコロナ禍以前と同様に戻して、家族や地域住民の参加を実施していきたいと思っております。

次に各事業実施状況について

介護・障害部門で特養は、空床改善や入院者減への取り組みを実施してきましたが、入院が6～7月と11月～1月にかけて増加し、昨年より稼働が厳しい状況でした。入院が昨年対比として延べ約233日増加し、年間入院実人数120人の延べ入院日数1,896日でした。特養平均稼働が3月末現在で93.4% (全体が92.3%) ⇒ 昨年94.10%で0.7%のdownの状況でした。特養の1日平均利用者は、多床50人に対し46.0人・ユニット40人に対し37.7人で、退所者は24名 (うち死者19名・長期入院者5名・施設退所0名・在宅0名)で昨年より1名増でした。ショートステイは9人定員に対し、月平均7.3人でした。今後も感染対策を徹底し、入院を出さない対応を看護・介護・ケアマネ・栄養・機能の職員で多職種連携・情報共有を徹底し、早期発見に努めていきます。又、入所やショートの新規獲得の為に事業所訪問や情報発信を強化していきます。

通所も同様で稼働が伸びず厳しい状況です。原因は近隣の事業所増加や課題である送迎の見直し等の体制が出来ていない事と思われれます。稼働としては、1日平均14.30人(うち予防給付0.63人)・保険外0.49人で、前年対比としても稼働が伸びず厳しい状況です。対策としては、アクティビティの体操等やレク活動を充実させて行い、感染対策を徹底しながら稼働改善する為の事業所訪問やキャンペーン・施設見学等の強化をしていく事が重要とされます。

訪問の稼働は、介護や障害が他のサービス利用から減少し、厳しい状況です。又、職員配置としてヘルパーの登録さんの採用できましたが、就労が厳しい状況にもなり新規受け入れが出来ない状況も重なり稼働もdownしています。年間利用回数3,624件 (内訳：介護1,725件・総合事業511件・障害支援1,189件・保険外199件)の4人体制 (登録1人が長期休暇)で取り組みました。今後も感染対策を継続しながら、体制を常勤2・登録4の配置で、質の高い支援に繋げ、ご利用者を獲得していきます。

居宅介護・障害相談においては、居宅介護が介護支援専門員の更新が出来てなく、稼働に影響を及ぼし厳しい状況になり、新規が受け入れも厳しく稼働の目標は達成できませんでした。実績として要介護平均41.6人・予防平均3.1人・総合事業(住民主体型通所)平均0.8人(保険外1人)の実績でした。障害相談は、こども園の担当が増え、稼働は月平均19件で増加傾向にあります。要因としては、障害の児童発達支援の事業をひかりとして開所出来た事があげられます。又、新規の方の獲得の為に基幹型支援センターなどへの声掛けで少しずつは増えてつあります。今後も感染対策しながら、新規ご利用者様獲得に向けて毎月の居宅新聞やパンフレットの配布・民生員定例会の出席や出前授業を行い、サービス事業所と連携を図り、行政等への働きかけを行い、ご利用者の皆様が在宅で生活がより長く継続出来る様にお手伝いさせていただきます。

障害者グループホームについては、感染予防対策を行い、外出や帰省制限も緩和し対応してきました。入所としては当初8名の入所で年途中での入院等もありましたが、どうにか8名を維持しています。又、数名の方が不安定な時期もあり、不穏はあるものの帰省等を実施し、少しは落ち着いては来ているようです。稼働としては帰省が多くなりましたが、84%で12%のupの状況です。又、行事等においても3年ぶりに県外への一泊旅行(大分列車の旅)や日帰り遠足を実施し出来ました。今後もご利用者の望む外出等を実施し、コロナ禍以前の行事等を取り組んで、ご利用者の安心安全な生活を提供していきます。

令和5年度は新型コロナウイルス5類へ移行され、面会も窓越しやWebから人数制限と時間設定し入室での対応をしています。行事については家族の参加と外部の余興参加も緩和を行い、コロナ禍以前のご利用者様や家族と職員と一緒に実施出来ました。開催行事としては、運動会・秋祭り(昼間)・夜間想定の日間の消防訓練・やごろうどん祭り見学・テラスビアガーデン(弁当式での取り組み)・輪光介護セミナー(2回とも中止)・さくら祭り・ユニット外出等については感染状況を勘案しながら実施しています。職員処遇としては、特定処遇改善手当や処遇改善支援助成金(2月追加)などの支給を行いました。又、職員確保が厳しく、年の途中からの退職や体調不良による休みの不足配置を派遣職員で補いながらも厳しい状況です。技能(インドネシア2名)と特定(インドネシア3名)技能実習生と不足対策としてシルバー人材活用(3名)や派遣(介護9名)・人材紹介・ハローワーク紹介で対応していますがなかなか厳しい状況です。職員の質の向上の為に研修会等を毎月取り組み、職員会議前(外部講師1回)や定期勉強会は職員が中心になり研修参加報告を交えての勉強会を行い、安心安全なサービスに繋げていきます。又、特養のハード面においては発電機の新規工事を県補助金活用して行い、その他として、冷蔵庫・食器洗浄機・パソコンや省エネ装置等の新規購入をしています。人材育成においてはフォローアップの重要性を理解して頂き、指導体制を再構築し、知識向上については県老協等の研修にWebを使って参加しました。

こども部門は、あたたかく心を添えたまことの保育・教育の更なる充実を図りました。感染対策をとりつつ、各行事も出来る限り皆に参加していただける意義深い内容となるように検討・実施しました。インスタグラム等での情報発信、子育てサロン(りんりんキッズ)の開催、市民祭参加等での広報活動に努めました。各研修において、又、りんこう発達支援ひかりや他の療育関係機関との連携の中で、個々に応じた支援の仕方や子ども達の自主性・自発性を育む保育についての学びを深め、職員の資質向上や保育の質向上をはかりました。職業講話や保育実習生の受け入れ等で、保育士育成や保育の魅力を発信する機会を設けました。保育実績は、月平均34名で延べ411名、学童保育実人数13名で延べ1493名、延長保育実

人数23名で延べ114名の利用がありました。

りんこう発達支援ひかりでは、新しい環境の元、子ども達や保護者の不安が少しでも取り除けるよう、今まで取り組んできた療育活動を大きく変化させることなく、取り組んでまいりました。幸いにも、人的環境は変わらずに生活出来ていたのも、新しい変化が苦手な子ども達もスムーズに移行でき、ひかりでの生活に馴染めていたように思います。

また、保護者も参加する行事として、夏祭りを開催しましたが、もっと地域の方々との交流もできればと感じたところです。そして、感染対策も兼ねて、あまり保護者の来所が重ならないようにしたので、保護者同士の交流も少なく、令和6年度はもっと保護者同士の交流が出来る工夫と、地域の方々の参加も視野に入れて考えていきたいとします。

そして、地域の中で自立した生活が出来るよう、地域で活動出来る機会を増やせるように考えていきたいとします。

登録は、児童発達が21名。放課後等デイサービスが39名でした。出席率は児童発達が88.51%、放課後等デイサービスが不登校児25.89%、不登校児以外87.54%の利用となりました。

輪光福祉会全体として令和5年度も感染対策を徹底しながら、各事業所で連携し、コロナ禍以前で取り組んだ地域との関わりを考え、関係作りを再構築し、一人でも多くの方々に輪光のサービスを利用する機会を増やしていきます。

最後に、地域との関わりを持つために次年度においては、毎年2回実施している輪光介護セミナーも地域の皆様のニーズに沿った計画立案で開催し、同様にボランティアグループGENKIの活動としての“地域の空き缶拾いや近隣小学校での立哨等”を実施し、地域の方に更に理解して頂くために地域に出向きアピールしていきます。又、“ペットボトルのふたやプルタブの回収”“出前授業”も継続していきます。